

高岡市男女平等推進センターだより

〒933-0023 富山県高岡市末広町1-7
(ウイング・ウイング高岡6階)
tel. (0766) 20-1810 fax. (0766) 20-1815
E-mail gec@office.city.takaoka.toyama.jp
http://www.manabi-takaoka.jp/GEC/index.html

2009
12月1日発行



「あーりて」は、自分の力で問題解決していくイギリスの童話「アリーテ姫の冒険」の主人公の名前です。「私の未来は私が創る」とアリーテはいます。



暴力で解決しない社会を

高岡 DV 被害者自立支援基金 パサパ

代表 向 富士子

「高岡市男女平等・共同参画都市宣言」をして1年が経ちました。

11月1日「男女平等 EXPO 高岡 2009」では、寸劇・落語を通してわかりやすく宣言を確認し、わたしたち市民ひとり一人が、日々の暮らしを見つめなおす好機となりました。また「高岡 DV 被害者自立支援基金パサパ」(以後パサパと略す)紹介の機会もいただきました。

パサパは昨年、高岡女性の会連絡会 20 周年記念事業として、DV 被害者が自立の一步を踏み出すための一時支援金を無利子でお貸しすることを目的にスタートしました。利用者は予想を超え、改めてそのニーズを実感しています。

そんな中、今年も11月12日から25日まで「女性に対する暴力をなくす運動」(内閣府主催)が全国で展開されました。そして初日の12日に、パサパ設立1周年記念の講演会「暴力で解決しない社会を～DVの被害者にも 加害者にも 傍観者にも ならないために～」を開催しました。

講師は、デートDV被害者家族として、被害の実態・その時親は何ができるかなど、体験をもとに話し、デートDV防止教育の必要性を訴え続

けている方です。

子どもが被害を受けていると知った時点で DV の知識のなかった彼女は、女性センターや相談機関に駆け込み、DV に関してのあらゆる情報を得、関連本を読み、学び、子どもを抱きしめ、自分が学んだことを、子どもがお腹の中にいる時から聴いている自分の声で伝え続け、子どもが自ら被害に気づくことを待ちました。被害に気づき回復するまでの道のりも、想像を超える困難が伴います。その間も共に学び、学び落として(気づいて)変わっていきます。「情報は知識。知識は力になる」と彼女は言います。被害経験者のお話を直に聞く良い機会となりました。

しかし、残念ながら被害者を責める場面もまだまだあると聞きます。言うまでもなく悪いのは加害者です。そして、暴力を容認する社会(わたしたち)です。

今後も高岡市男女平等推進センターを拠点に情報を共有し、「暴力で解決しない社会づくり」を目指して活動を続けたいと思います。



富山県男女共同参画推進員高岡連絡会

地区懇話会 報告

～11月15日



今後の予定

能町校区 10/10(土)

内閣府男女共同参画局作成 DVD「配偶者からの暴力の根絶を目指して」を視聴し、市内にも DV が起こっていることを認識し、個人の意識や地域での連携が大切と気づきました。

野村・下関・二塚校区 11/11(水)

「データから読み解く男女共同参画」をテーマに講師との楽しい会話で進行しました。参加者から、男女平等・共同参画都市宣言を歌にしてはどうかという積極的な提案もありました。

牧野校区 10/16(金)

「男女共同参画って？」をテーマに、ワーク・ライフ・バランスや DV に関する問題を取り上げ、グループで和やかな雰囲気の中で話し合いました。

西広谷校区 11/15(日)

「気づいて!DV」をテーマとして地域住民、小学校教員も参加し、まだまだ知られていない DV についてロールプレイングなど使いながら学びました。被害者への支援にも共感が得られました。

東五位校区 11/7(土)

講師：早川たかしさんと共に、子育てから学ぶ男女共同参画を考えました。ワークショップも交えた講演で、親子のコミュニケーションを図る大切さを学びました。



推進員は、男女平等 EXPO 高岡 2009 でも大活躍!



心のおしゃれ 幸房

人は幸せな時、順調に物事が進んでいる時には、自然に笑みが溢れます。しかし、この「笑う」ということは、苦しい時にこそ、生きる力を与えてくれるものだと思います。

それは、困難な状況にあっても、意図的に笑いをすることで顔の表情筋の動きが脳に伝わるからです。脳は「楽しい」とだまされてしまい、脳の内部に快感ホルモンや、癒しのホルモンが分泌され、免疫力を高め、ストレスを軽減させるということだそうです。

ある実験では、笑った後は脳が活性化し、脳の血流量が確実に増え、ストレス状態では、脳の温度が低下することが立証されています。「笑い」が、脳のみならず、人間を心身ともに元気にする効果があるとされます。実際に嘸家でもある医師が、病院で月1回「寄席」を開いたり、またアメリカでは末期がんの患者の治療に「笑い」をプラスしたところ、それぞれ、それをしない時に比べ良い結果が得られています。

11月に行われた、男女平等 EXPO 高岡 2009 では落語家・桂 あやめさんに、講演と落語をお話いただきました。ご来場の皆様も、お帰りの際は、いっそう明るい笑顔になっていました。

「笑う」という感情は、人間だけが、生きる苦しみを知っている動物だからこそ、自身で創り出したものかもしれません。それとも、地球上で唯一、苦しむ生き物である人間に与えられた神からの贈り物でしょうか。

新たに迎える平成 22 年も、このコラムの内容をちょっと心に留めて、笑顔が持つ効用を發揮させ、人生を前向きに幸せに歩みたいものです。

高岡市男女平等推進センター所長 野村 乙美

高岡市男女平等推進センター相談室のご案内

男女平等推進センターには、専任のスタッフによる相談室があります。個室での面談(要予約)電話相談を無料で行っています。うち1室にはベビーベッドも備えています。

相談室専用電話
TEL (0766) 20-1811

【電話相談】【面接相談(予約必要)】
9:30～16:30 月・火・水・金・土
14:00～20:00 木
(相談業務は毎週日曜日がお休みです。)

〒933-0023
富山県高岡市末広町1-7
(ウイング・ウイング高岡6階)
休館日 毎月第4月曜日
12月29日～翌年の1月3日

高岡市は男女平等・共同参画宣言都市です。

「認めあい 支えあい 共に輝くひととまち」をみんなで目指しましょう。



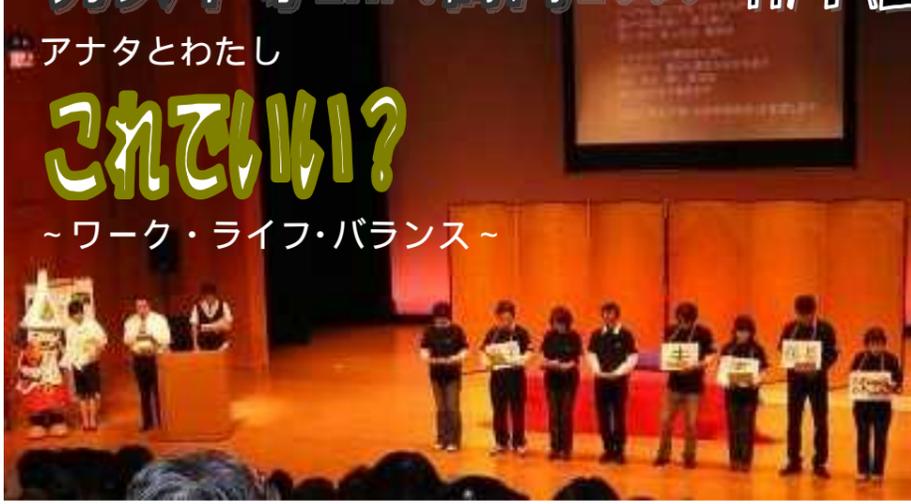
おのけた! 出会い ふれあい 深め合い

男女平等EXPO高岡2009 11/1(日)

アナタとわたし

これでいい?

～ワーク・ライフ・バランス～



会場：生涯学習センターホール
(ウイング・ウイング高岡 4 階)



ウイング・ウイング祭
1 階・6 階パネル展示



講師 桂 あやめ さん
演題 「女と男 笑いでコミュニケーション」



問合せ 男女平等推進センター (0766)20-1810



約 200 名の来場者を迎え、男女平等 EXPO 高岡が開催されました。会場には、男女平等推進ネットワーク会議構成団体の活動を紹介したパネルも展示されました。

まず、富山県男女共同参画推進員高岡連絡会による寸劇に始まり、来場者全員による高岡市男女平等・共同参画都市宣言の唱和を行いました。

続いて落語家の桂 あやめさんの軽妙な語り口での講演、創作落語。シンポジウムでは、パネリスト、参加者から今年度のテーマである「ワーク・ライフ・バランス」について活発な意見交換が行われました。

富山県男女共同参画推進員
高岡連絡会による寸劇



シンポジウムで、参加者
と意見交換の様子

参加者の声

落語界で数少ない女性としてがんばってきた事を、明るく前向きな言葉で話してくれたのが自分にも励みになった。(40代)

言葉だけでは分かりづらいワーク・ライフ・バランスだったが寸劇だとすんなり理解できた。職場でも、理解が欲しい。(30代)

桂さんのお話、落語がとても面白く元気をもらえました。つらい話もプラスアルファで考えるという生き方が良いですね。(60代)

がんばる男性のための 達人に学ぶ! 働く心得

2 回にわたり仕事や就職活動に役立つマナーやコミュニケーション術をその道の達人から、学びました。

10 月 24 日「すぐに役立つマナー&ウォームビズ」では、講師の藤田 多恵子さん(大和高岡店人事顧客課長)山岡 華穂さん(紳士用品担当者)から、実際に職場で使用している資料を参考にお辞儀の仕方、心構え、ウォームビズに添った身だしなみを教わりました。

11 月 7 日の「使えるコミュニケーション術」では、金堂 佳永子さん(金城大学短期大学部講師)から第一印象の大切さや、話し方、聴き方、自己紹介の仕方などについてワークショップを交えた講義から学びました。



参加者の声

「すぐに」「使える」というので参加しました。
次回は、聴く技術について、知りたいと思った。(30代)
第一印象の大切さがよくわかった。これからは着こなしにも気をつけようと思う。(40代)
ワークショップでは、色々な職種の人と話せて面白かった。(30代)



女性に対する暴力をなくす運動

11/12(木) ~ 11/25(水)

女性に対する暴力をなくす運動の一環として、今年も講演会、サロンのパネル展示を行いました。

11 月 20 日の講演会「意外に知らない身近な DV」では、講師に河井 真紀子さん(富山県女性相談センター所長)を迎え、家庭内での夫婦の会話や行動を事例にあげ、身近なところに DV が潜んでいることをわかりやすく解説していただきました。

また、サロンでは、期間中訪れた皆さんに暴力をなくしたいとの思いを込めて、大きな T シャツにパープルリボンをつけてもらいました。

参加者の声



DV は、絶対に許されることではない。
もっとセンターを知ってもらい、DV に対する知識や対策が広まると良いと思う。(50代)
DV にも様々な事例があることがわかり、もっと早くに知っていればよかった。(40代)

